タレブ『まぐれ』の要約

寺尾　敦

# 第２章　奇妙な会計方法

この章では，判断の質を評価するときには，物事がたどったかもしれない他の道，すなわち，「違った歴史」を考慮しなければならないということが主張される．

一般に，人は実際に生じた結果だけを見て判断の質を評価する．違った歴史を考慮することは反直観的であり難しい．現実世界では，望ましくない結果はしばしば「黒い白鳥」であり，非常に稀にしか起こらないので，無視されてしまう．結果は目につきやすいが，それを生じさせている確率的メカニズムであるジェネレータは見えにくい．

ランダム性によってたまたま生じた結果に，わかりやすいもっともらしい説明がつけられて，必然のように扱われていることがよくある．マスコミは，たまたまの成功者や，たまたま当たった予言をセンセーショナルに取り上げる．違った歴史は無視されている．